

# 行岡会ニュース

## “行岡会”会誌特別号《第27号》



同窓会 アドレス <http://www.dosokai.ne.jp/yukiokakai/>

学校法人 行岡保健衛生学園  
大阪行岡医療専門学校長柄校整復科

〒531-0061 大阪府大阪市北区長柄西1丁目7番53号  
TEL.06-6358-9271(代表)  
FAX.06-6358-3451  
<http://www.yukioka.ac.jp/>

### お知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響により以下の件につきましてご了承いただきますようお願い申し上げます。

- ◎2020年度 行岡同窓会総会の中止
- ◎2019年度 事業報告並びに会計決算書はホームページに掲載 **行岡会** **検索**
- ◎総会中止に伴い暫定的に現役員継続
- ◎臨床セミナーなどの協力・協賛による学生支援活動

写真撮影の帰り黒潮町砂浜美術展の看板が目にとまり、泊して早朝より砂浜4キロに3千枚に及びTシャツアート展が開催されていました。海の中に入り撮影した一枚の作品です。  
《大分県 9期 西邑伊三郎先生ご提供》



### ご挨拶



行岡会会長  
25期 五反田 重夫

この稿を執筆している5月15日現在、国内の新型コロナウイルス感染者数も減少傾向に向かいつつありますが、私の居住しています神戸市では、特定警戒都道府県で緊急事態宣言対象地域の為、不要不急の外出自粛が継続しております。新緑のいい季節に反して、新型コロナウイルス感染症による健康不安や経済停滞が社会を混乱させています。  
会員の皆様、ご家族様におかれましても、十分ご注意の上お過ごし下さいませ。

この紙面が皆様のお手元に届く頃、このコロナ禍がどの様な状況になっているか想像もつきませんが、必要以上にネガティブにならぬよう冷静さを保ち、自分や大切な人、そしてこの社会を守るために、出来る限りの予防策を取り、協力し合って参りましょう。見えないウイルスとの闘いには一人ひとりが当事者として平常心で毅然と戦う力が不可欠です。「禍(わざわい)転じて福となす」  
未来が一刻も早く訪れますように、共に立ち向かって参りましょう！

最後になりますが、大阪行岡医療専門学校卒業生69期生が令和4年3月で卒業となり、新規募集を停止しておりますので、全国同窓会の存続を議論する必要があります。  
元現執行部の役員会では、終身会費が枯渇するまでは、会員の皆様と力を会わせ同窓会会員の資質向上と繁栄を願って情報交換会や、現行の同窓会誌、特別講演会、臨床実技研修会等を継続させたいと全員一致で願っています。全国の会員の皆様一人ひとりのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

昨年(2020年)は平成から令和という私自身二度目の時代の移り変わりを経験し、新しい時代の本格的な幕開けとなった本年ではありましたが、世界中が新型コロナウイルスの脅威に晒され多くの犠牲者が出る現状になっております。4月に緊急事態宣言が発出され学校も長期に亘る臨時休校を余儀なくされました。日本国内は国民一人ひとりの理解と努力により米国や欧州諸国ほど死者は多くありませんが、大切な命が多く失われる結果となりました。何ともやるせない気持ちになりましたしウイルスの恐ろしさを感じました。罹患した時には仕方ないといふフルエンザワクチン接種に後ろ向きだった私ですが、次回からは接種を受けようと思つた次第です。  
そのような状況でも普段通り患者さんと向き合われて感染の危険性のある中施術をなさつておられる先生方に敬意を表します。現代の医師の多くは患者さんに触れることもなく診察を終えてしまふようですが、我々柔道整復師は患者さんに触れないと施術にはなりません。鍼灸師やあんまマッサージの先生方も同様ですが、これから如何に患者さんの感染への不安を取り除いて行けるかという問題が残ります。これまでに幾度となく苦しい状況乗り越えて来た柔道整復師の底力を今こそ発揮する時ではないかと思っております。  
整復科は本年度も引き続き学生募集を止めており、将来の展望なども全くない状況ではございません。しかし、柔道整復師の底力を発揮して難局を乗り越えて行ければと思っております。先生方には今後とも変わらぬご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

末筆になりましたが、諸先生方の今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

### ご挨拶



大阪行岡医療専門学校長柄校  
整復科 教務主任  
田中 勇二

令和元年度  
行岡会役員会・支部長会  
《日時》令和元年7月13日(土)  
15:20~16:00  
《場所》大阪行岡医療専門学校 長柄校 整復科

- 役員会出席者(敬称略)9名
- 11期 島中 宰治
  - 14期 田邊 美彦
  - 25期 五反田 重夫
  - 25期 古沢 公一
  - 27期 笹岡 正典
  - 29期 森瀬 昭則
  - 30期 菱谷 憲嗣
  - 47期 布施 賢太郎
  - 43期 藤井 敦志
- 会長挨拶 会長 五反田重夫  
来賓挨拶 教務主任 田中勇二

今年から学生の募集を停止します。2年生13名、10名、1年生11名が卒業したため、目途が立つこととなります。学校を卒業する動きから授業時間が400時間増え、単位数110単位、開業には卒業してから3年の実習が必要になるなどの変革によって、40代から上の学生には厳しい条件となりました。なかなか新しい形も厳しいものとなりました。

各委員会報告  
広報委員会…6月中旬広報誌発刊した。  
學術委員会…委員長不在により会長が依頼し講師決定した。

質疑応答  
今後の会費運営について意見交換を行った。



支部長報告

- ◎名誉会長…新田 豊
- ◎京都府支部…田中弘昭
- ◎大分県支部…清田洋一
- ◎三重県支部…上田慎二
- ◎滋賀県支部…西河孝明
- ◎奈良県支部…前田貴史
- ◎鳥取県支部…山本昌幸
- ◎佐賀県支部…力山清司
- ◎宮崎県支部…中西秀一

令和元年度 総会

総会議事録

〔日時〕令和元年7月13日(土) 16:10~16:40

〔場所〕大阪行岡医療専門学校 長柄校 整備科

- 司 会 副会長 笹岡正典
- 会長挨拶 五反田重夫
- 来賓挨拶 田中勇二先生
- 議長 森瀬則昭 副議長 古沢公一

議題

1.第1号議案 平成30年度事業報告 総務委員長 前田貴史(代読笹岡正典)

2.第2号議案 平成30年度決算報告 会計理事 布施賢太郎

3.監査報告 監事 西尾勝彦

4.第3号議案 令和元年度事業計画案 総務委員長 笹岡正典

5.第4号議案 令和元年度予算案 会計理事 布施賢太郎

6.各委員会報告 特になし

7.質疑応答

- ①今後取り崩し金は同じ金額でいくのか?
- 〔回答〕同じ金額の予定だが今後変動する可能性はある
- ②名簿作成管理費とは?
- 〔回答〕名簿管理会社サラトに支払う費用7万円(税込)
- ③総務費3万円の内訳は?
- 〔回答〕総務部員5人の人件費

令和元年度 学術講習会

「救護の基本」

大阪行岡整備同窓会 会長 八木良憲先生(31期)

今現在もスポーツ現場に立ち救護に向かい続ける経験豊富な八木先生ならではのリアルな話が聞けて、参加者の方々は身を乗り出して聞き入っていました。実際に使われているタンカを利用して説明していただき、現場ではスピードが一番であること、どこまでが我々の範疇でできることなのかを見極めることの大事さを実感しました。

ラグビーW杯日本大会にも携わる予定で学生の方々は興味津々でした。



講演される八木先生 昭和36年生 平成8年八木接骨院開院

令和元年度 第一回役員会議事録

〔日時〕令和2年1月25日(土) 15:30~17:00役員会

〔場所〕大阪行岡医療専門学校 長柄校 整備科

出席役員(敬称略) 西尾勝彦・五反田重夫・菱谷憲嗣・笹岡正典・布施賢太郎・藤井敦志

議題

1.同窓会行事

- ①学術講演 ②会誌 ③臨床セミナーの3本柱は今後も継続する。
- その他

◎同窓会名簿の整理を行うべき。

◎同窓会費を含め学校が休止してから今後を常に話し合うことが必要。

2.臨床セミナー

西尾勝彦先生 「橈骨下端骨折の整備について」

トピックス

大阪学術講演会

大阪行岡整備同窓会 学術委員 47期 富永 貞之

「〜チャレンジシリーズ第7弾〜 発達支援のウソ・ホントー あなたは誤解していませんか？」

関西福祉科学大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 教授 倉澤 茂樹 先生

「令和」という新しい時代が幕を開けた。世間はお祝いムード真っ最中の5月11日(土)、大阪道頓堀ホテルでは毎年恒例の大阪行岡整備同窓会が行われ総会に続き令和初の学術講演会が開催された。

今回のテーマは「〜チャレンジシリーズ第7弾〜 発達支援のウソ・ホントーあなたは誤解していませんか?」と題して、関西福祉科学大学の倉澤茂樹先生にご講演をいただきました。

「発達障がい」と言っても、自閉症スペクトラム、注意欠如・多動症、限局性学習障害等、多種多様であり、全人口の10%程の方があてはまるらしい。しかしその多くは確定診断されていないという現状に驚いた。

知識に関する基礎的な内容だけでなく、講師の先生ご自身の経験をもとに身ぶり手ぶりを交えた講演をして頂き、初心者にとっても理解し易い内容であった。多くの内容をお話しいただいたが、ここでは特に「自閉症」について触れてみる事とする。

- ◎ 自閉症スペクトラムの方の特性として
  - ◎ 共感性が乏しく、こだわりが強い
  - ◎ 文脈が読めない
  - ◎ 他者視点に立てない
  - ◎ 変化を嫌う
  - ◎ 触覚・聴覚等の感覚過敏症状
- などの特異的な行動や感覚を持ち合わせているという。話を聴きながら、自分も同

じように似た行動をしていることがあるので、自分もそうなんじゃないかと、自己分析をする方もいらっしゃいました。

このような特性を持つ「発達障がい」の方に對してどのような支援が必要となるかについては、

- ①適切な行動に對して直ぐに褒める
- ②視覚支援(構造化)の活用
- ③図や写真(絵)環境調整等を用いて分かりやすい提示をする
- ④指示の明確化
- ⑤曖昧で抽象的な指示では分かり難い数・量などを用いて具体的な伝達を心掛ける
- ⑥感覚過敏回避行動を教える
- ⑦過敏症状に對しての周囲の理解も大切
- ⑧ストレスコーピング
- ⑨自由が分かりにくく不安な方もいる
- ⑩自由な時間の過ごし方を明確に伝える
- ⑪確率操作
- ⑫適切な睡眠(不足すると20%ダウン)
- ⑬食事
- ⑭排便(女性は生理も)

以上の講演内容から異業種の話のように感じられるが、日常の臨床場面において「発達障がい」の方とも接触する機会が多々あるかと推測された。その中で今回の講演で学ぶ前と後では我々がとるべき手段が格段に違ってくる。相手を変えるのではなく変わるべきは我々の考え方であったと改めて実感いたしました。

結びに大阪行岡整備同窓会の学術講演では今後とも様々なジャンルの演題を取り上げ、先生方の卒後研修の場となるよう今後とも努めてまいります。



講演される倉澤茂樹先生 作業療法士免許 大阪府介護支援専門員 日本感覚統合障害研究 認定 和歌山医科大学大学院 医学研究科 博士課程

産業柔道整備師活動報告

「特別養護老人ホームほろの里」

兵庫県 44期 本田 雅彦

特別養護老人ホームほろの里において「産業柔道整備師」として活動する機会がありましたので報告する。産業柔道整備師とは、「企業の健康経営を支援することにより社会に貢献する」という理念のもと兵庫県柔道整備師会と兵庫県柔道整備師協同組合の共同事業として、4日間にわたる認定修了講習会を受講し認定を受けた柔道整備師が企業や施設等へ訪問し活動するものである。

〔活動人員〕

今回の活動は3名(マネジメント業務1名、職場労働環境調査・体操指導2名)で行った。

〔職場環境アンケート〕

実施日2018年11月26日回収数50名 (男性5名 女性45名)

全体の90%以上の従業員が体調は良好もしくは普通と答えているが、体に痛みやだるさ等何らかの症状を抱えている従業員がいることが判明。

〔職場労働環境調査レポート〕

現地調査実施日2019年1月16日 現地に赴き、食堂、厨房、入所室、寝室、入浴場、照明、人員、食事介助の様子などを見学。

介護現場の労働は想像以上に重労働であると実感するも施設職員は利用者の気持ちに立ち献身的な行動・言動をとり全体の雰囲気もとても明るく良い印象だが、前屈作業なども多く、不良姿勢を取らざるを得ない状況が発生することもあり得るため、負担を軽減すべく作業中の姿勢改善の必要性を感じた。

また、家庭や職場でできる体操指導、腰痛予防のための骨盤ベルトの装着位置や方法などの確認と指導の必要性を感じた。

〔腰痛予防セミナー〕

実施日2019年1月25日

職場労働環境調査レポートを基に、作業時の姿勢改善のアドバイスや家庭や職場でできるストレッチや筋力アップトレーニング、セルフリンパ体操、エアロビクス風体操などを織り交ぜながら、「運動の実践と習慣化」を目的に指導を行った。

【セミナー後のアンケート】  
回収数30名(セミナー参加者全員)

セミナー実施から1か月後にアンケートを回収した。

26名(87%)がセミナー受講後に健康に対する意識の変化や課題が見つかったと回答しているが、運動の実践・習慣化ができたのはわずか3名(10%)であり課題があることがわかる。定期的な指導により実践の定着化を図ることが大切だと実感する。

また、25名(83%)が「今後も産業柔道整復師のセミナーに参加したい」と回答した。

### 【考察】

一連の活動を通して産業柔道整復師事業が目的とする健康に対する意識の変化や課題の発見についてはその目的を果たしているが、運動の実践・習慣化については現場の声を聴き、継続的な指導の実施や要望に応じていくことが必要であると考え、産業柔道整復師事業を通して、柔道整復師に対する意識や認識を実感できたこと、このような交流を通して相互理解を深めることの重要性を再認識した。



介助時の動作 姿勢確認



腰痛セミナー

## 兵庫県下8カ所の施術所を利用した 介護予防教室

53期 金田 尚

私の所属する兵庫県柔道整復師会 介護保険部(以下、介護保険部)では日々、柔道整復師が接骨院・整骨院の場も含めた社会資源として、その専門性を活かした地域貢献ができることを目指して活動しております。

その内容は介護保険制度にとどまらず、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」を見据えた上でその役割を考えていかなければいけないことを意味しています。

令和元年度におきましては、兵庫県下8カ所の施術所(兵庫県柔道整復師会会員)において、昼休みを利用した介護予防教室を実施いたしましたので、事業内容について発表させて頂きます。

### 令和元年7月7日

- ◎ 事業概要の説明会を開催する
- ◎ 柔道整復師として各地域でどのようなニーズがあるのか、そのニーズに対してどう応えていくのか?
- ◎ ポストイットを利用したワークショップ形式で相互理解を深める

### 8月18日

- ◎ 事業を行う施術所の選定を兼ねた指導者養成講習会を開催する
- ◎ 実施するプログラムの紹介と説明及び実技の修得練習

◎ 県下で地域に偏りが出ないよう8カ所の施術所を決定する

### 9月19・20日

◎ 選定された会員を対象とした教室運営に係る書類配布・リスクマネジメント等の説明会を開催する

### 施術所での事業内容

◎ 令和元年10月より12月までの3ヶ月間(曜日は実施者の希望日)週一回の全10回コースの少人数制(5人以下)

◎ 初回と9回目に体力測定と痛みの評価表(※1)・基本チェックリスト(※2)を実施

◎ 筋力強化・脳トレ・転倒予防・口腔ケア・失禁予防等の共通プログラムを作成し使用グッズまでをパッケージングして実施



当初は、利用者様の顔を伺いながらプログラムを実施するが故に時間配分に苦慮される先生は少なくありませんでした。しかし、回を重ねるたびに利用者から実施する先生との距離も縮まり、利用者から「ほめるような雰囲気」が各会場で作られていきました。数字でも目覚ましい結果が出ており、体力測定では8カ所ともに全ての項目で向上がみられました。痛みの評価表においても、初回記入時より痛みの軽減を申告される方がほとんどでした。

しかしながら、基本チェックリストについては事前・事後で比較したところ、その殆どが維持という結果でした。これは今回の事業に限らず、どの介護現場においても基

本チェックリストは結果が安定しない報告を耳にするため、今後現場での記入の実施方法などが課題となります。

今回の事業を通して、介護保険部では測定の結果以上に功績を得たことがあり、それは事業に携わった先生方が声をそろえて、介護予防教室運営に自信を持たれたことです。

また利用者より教室の継続を望まれる声が多かった為、各施術所より介護保険部に相談され、自発的にアフターフォローの教室運営を始められた先生が多くおられ、大変喜ばしい成果です。

介護保険部では今回の事業に携わった先生より、すばらしいフィードバックを頂いています。それを活かして、今後も多くの会員の皆様がもとより、柔道整復師がそれぞれの地域への貢献に活用できるような事業を展開して参りたいと思っております。地域包括ケアシステムが推進、深化していく中で、柔道整復師としての社会貢献を継続するために組織的な取り組みを行うて参ります。

最後までお読み頂けたことに心より感謝申し上げます。

※1 現在ある体の痛み上位2カ所を図示してもらい評価する。

※2 介護現場で利用される25項目の日常生活における質問

## 支部だより

大阪3校柔整合同 同窓会  
柔道整復師を後世に伝えるために

平成31年2月10日(日)  
大阪道頓堀ホテル

大阪行岡整復同窓会

広報担当副会長 34期 西村 信一

平成31年2月10日(日)、大阪道頓堀ホテルにて「大阪3校柔整合同同窓会」が実現しました。今回は初めての試みというところでしたが、柔道整復師を後世に伝



故・行岡忠雄先生

えるために「というテーマの元、総勢100名を超える柔道整復師が集結しました。まずは昭和の時代に「関西3校」と言われていた「関西柔整」、「明治柔整」、「行岡柔整」各校の同窓会・校友会組織で声掛けをしていたいただき、3校の大阪在住の同窓生・校友会会員が一堂に会し、大変な盛り上がりを見せました。

今回の合同同窓会は、故・行岡

忠雄先生の「君たち柔道整復師は脆弱な存在なのだからこそ、お互いに助け合いながらしっかりとした医療行為を実現し、この日本の医療界全体の発展に繋げて行くのだ」(「整骨医事雑誌」の第1巻第3号「大阪接骨外科病院創立の意義」要約)という崇高な意思に基づいて実現しました。合同同窓会の目的として、以下の3点を挙げています。

1. 柔道整復師を取り巻く状況は年々厳しさを増し、後ろ向きなニュースに事欠かない状況である。そこで問題点を共有したり忌憚なく話し合える機会設定を行いたい。

業界に明るいニュースを提供したい。  
2. 所属団体の違いや組織改編、もしくは所属団体を変更すると柔整師同士の横の繋がりが希薄になつてしまいい、情報共有もままならない現状がある。  
この状況を横断的に繋げる役割として

同窓会の存在を活用したい。その為にもこれまでの経緯や学閥といった枠を乗り越え合同の同窓会を実施したい。

まだまだ大阪で開業する柔道整復師の大半が3校の出身者で占めている状況を考慮すると、このような活動を大阪から始めて他地域にも波及すればより大きな影響を及ぼすこととなる。将来的には養成校の同窓会の連絡協議会のような組織を目指す。

3.同窓会の運営に苦慮している。参加者が少ない、新入会者に参加意欲を持って貰えない等々各校に共有する問題に対する起爆剤にしたい。

そして、今年度はさらに発展的に「大阪柔道整復師養成校合同同窓会(大阪柔整合同同窓会)」と改名して在阪5校(明治柔整・平成柔整・森ノ宮柔整・東洋柔整・行岡柔整)が学校の垣根を越えて令和2年9月27日(日)に森ノ宮医療学園専門学校にて開催される予定です。

詳細については「大阪行岡整復同窓会公式ブログ」をご覧ください。どなたでも参加できる集いですので、多くの柔道整復師の参加をお待ちしています。

## 大阪3校柔整合同同窓会 発起人



《行岡》八木先生 《明治》田寺先生 《関西》一谷先生

関西医療学園専門学校校友会 柔整部会長 一谷 勇一郎  
明柔会 大阪支部長 田寺 篤  
大阪行岡整復同窓会 会長 八木 良憲

## 行岡会8期同窓会・和歌山市で開催

和歌山県支部 43期 川本 太一

令和元年10月20日(日)15時から和歌山市の畠中整骨院ビル3階において、行岡会8期同窓会(講演会・総会)が開催されました。



講演会では、石黒久雄先生(行岡会8期)が「骨股関節・膝 機能改善教室」と題して実技を交えて講演され、「運動に関する3つの原則」に、上肢・下肢・体幹それぞれの筋力、柔軟性、そして何よりも正しい姿勢の確保が重要だと述べられ、年齢に見合った怪我をしない安全な運動を継続することの大切さ、疾病がある場合は運動療法の専門家の指導管理のもとで体に合った正確な運動を積み重ねていくことの意義を教えて頂きました。

今回は行岡会の会員のみではなく、地域の方々も多く参加されており、石黒先生の軽快な講義は、会場の皆さんの体が自然と動くような雰囲気にも包まれ、和歌山支部のメンバーも楽しく参加させて頂きました。

ダイワロイネット レストランサンクシエールに場所を移しての懇親会では、行岡会本部の相談役畠中幸治先生(11期)も参加され、60年前にタイムスリップし、当時の話題で時間を忘れ盛り上がりしました。

翌日には、和歌山市内を観光し、次の回の再会を誓い無事解散となりました。



## 支部総会・研究会を開催

兵庫支部長 25期 古沢 公一

令和元年度の総会・研究会を7月6日(土)兵庫県柔道整復師会館4階に於いて開催しました。

平成30年度行事報告会計報告並びに令和元年度行事計画案・会計予算案につきまして、すべて可決承認されました。

本年度より56期の丸柱佑介先生が新入会員として入会されました。ご報告させていただきます。

今年度の研究会は兵庫県柔道整復師会の協同組合が主管し、JATAC兵庫と行岡同窓会が協賛しての開催となりました。

NATA公認アスレチックトレーナーATCの川西弘晃先生をお招きし「痛み」の消去法「運動療法の極意」を座学で学び、その後「段階別トレーニング3種・足関節編」を実践して実践しました。

参加者全員が熱心に取り組まれ、予定の3時間を過ぎるとも有意義な研究会となりました。

令和2年度も会員の皆様どうぞよろしくお願いたします。



## 17期 上田菊男会長 瑞宝双光章を受章



令和2年春の叙勲の受章が内閣府より発表され兵庫県内から様々な分野で長年携わり功労を重ねた人に瑞宝双光章が贈られ上田菊男先生が受章されました。おめでとございます。今後ますますのご健勝をお祈りいたします。

## 行岡整復専門学校時代の思い出

奈良支部長 31期 前田 貴史

新型コロナウイルス感染拡大により、緊急事態宣言が全国に発令されました。

感染拡大防止対策として、奈良県内でも様々な事業の中止が決定しているところ。感染しない、感染させないためにも外出は自粛し、手洗いうがい、清拭や手指消毒を励行して、3密を避けての行動を心掛け、この難局を乗り越えてゆきましよう。

行岡会奈良支部会は新型コロナウイルスと関係なく、本年度の活動を自粛してしまいました。支部会員の皆様には大変申し訳なく思っております。

さて、今回は行岡整復専門学校時代の思い出です。

卒業試験、国家試験を間近に控えた頃でした。入学当初から仲良くして貰った同期生から、自宅への招待がありました。私を含め3名でお邪魔したと思います。彼のご自宅は、御父上が接骨院を開業され、私にとっては雲の上の存在のようでした。日曜日の休診日でしたが、接骨院の見

学を兼ねて興味深々と訪問しました。ひと通り院内を見学させて頂き、少し落ち着いた時でした。御父上のご登壇に、緊張しながら挨拶を済ませると、突然、国家試験さながらの口頭試問の練習をして頂くことになり、頭の中が真っ白になったことを思い出します。

当日の口頭試問の内容は、肩関節脱臼の発生機序と整復法を解剖学的にも詳しく説明しながら行えというもので、普段から遊び呆けていた私には答えられる筈もなく、このままでは国家試験合格は不可能ではと、顔面蒼白になった記憶です。

国家試験は、年々難しくなっているように思います。卒業研修の制度も加わり、開業までの道のりはより厳しくなりましたが、これから柔道整復師を目指す方々には試験の合格と無事の研修終了をお祈りいたします。



## 「大阪行岡整復同窓会」からの 講師派遣活動

大阪行岡整復同窓会

広報担当副会長 34期 西村 信一

令和元年度の「大阪行岡整復同窓会」懇親会(5月11日・土曜日)において、ご臨席いただいた田中勇二教務主任より次年度以降の新入生募集の一時停止が発表され、同窓生としては残念な気持ちになりました。また、その場で田中先生からお願いとして、「大阪行岡整復同窓会」所属同窓生の中から在校生に対して「特別講義」をしてもらえないかという依頼でした。

卒業後、柔道整復師として色々な経験をして来た同窓生ならではの臨床経験談や経営の苦労話、成功例や失敗例も含めて現場の「生の声」を学生に聞かせてやり

たいというご提案でした。

早速、役員の中で検討した結果、講師派遣第一弾は広報委員会・副委員長の方井義博先生に登壇していただくことになりました。5月に提案されて7月なので、2か月弱の準備期間でしたが、急な依頼にも次井先生には快諾いただいて今回の講義となりました。

以下にその内容の一部をご紹介します。

令和元年7月6日(土)15:10~16:40、長柄校舎において教務の田中先生も同席され、特別講義が始まりました。

- ①柔道整復師の歴史について(嘉納治五郎先生と行岡忠雄先生を中心に)
- ②実際の柔道整復師業務について(治療への取り組み、考え方)
- ③自身の外傷体験について
- ④柔道の効能について(柔道受け身体操の紹介)
- ⑤その他



講義内容としては以上のように多岐に渡っており、次井先生自身が「もしもタイムマシンがあつて、柔道学生1年生の自分が目の前に居たとしたら、こんな事を言っておきたい!」という内容で構成してみたというだけあつて、次井先生の熱意

が学生さん達に伝わり、皆さん熱心に聴き入っていました。

当初予定していたレジュメの内容に加えて、具体的な治療の話では、臨場感たっぷりに熱く語られていました。その「熱さ」を学生さん達が感じ取って、さらに前のめりになって受講生全員が目を輝かせて、食い入るように聞いていました。

全国同窓会からも卒業生による「特別講義」が行われているということですので、教育のプロである教務の先生方とはひと味違った講義が行われて学生さん達にはいい機会になったんじゃないかと感じました。次井先生、急なお願いにもかかわらず登壇いただいた有難うございました。

「骨は、付くときはたつた二日で付く」と言った父の言葉を想い、我が右薬指の骨折を無固定で観察した思い出

大分県 14期 清田 洋一

今から18年程前(歳は60)だったと思う。数回目の会主催「ソフトボール大会」のこと。女性事務員のIさんがピッチャー。長身の剛腕から放たれた球は、空を切ったバットを握っていた私の右薬指の先端を直撃したようだった。

直後に激痛を感じたが、ここでもいつもの自己表現方法が出て「さりげなく」その場を終えた。

突き指だろうと放置して翌日。腫れはあまり出ないが痛みは昨日の負傷時とほぼ同じ。我慢していきついていると、グツと軋轢音を感じた。末節骨が折れている。球が指の先端に真っすぐ当たったのだ。患者さんであれば当然レ線検査を受けるよう指示を与えた処。このときちょっと違う考えが私の頭を占領した。

この時に至るまでの人生、骨折した経験はない。

そして、父(故)は私の記憶にない若い頃の朝鮮時代から、柔整師として相当の骨折

治療を経験してきたようだった。

私の知る整形外科の教科書には骨折の癒合日数は、骨の種類ごとに〇週間〜〇週間とだけどの本にも書いてあった。父の骨折患者さんへの説明は違っていた。「〇日目に骨が付く」と。

私の若い頃の頭にも、この「〇日目」という父の表現が刷り込まれた。私は我儘なくせに、こんなことには父を信じる処があつた。

単純な横骨折のようだ。いま折れているこの骨が、何日目に付くのか?そのときはどんな感じなのか?よし、試してみよう。固定せず、物になるべく指先を当てないよう注意のため白いテープを末節に軽く二廻り張り付けたのみ。

少し痛かったが、毎日一回、まだ付いてない、まだ付いてないと指先の骨片の動きを確かめることを続けた。途中から少し末節骨の骨片の動きが鈍くはなつてはいるが、まだ動いている。14日目だったか。朝起きて触ったら動かない。完全にくっついていて。間違いなく前日は動いていた。(ただ、この日は何かに打ち当てた衝撃で、また少し動いた。)

次の日は、全く動かなかった。ピクともしない。「付いた」のを感じた。このあとは全くそのまま。治癒。こんな実験めいたことだったので、少し背側変形を残してしまつた。



以上が「骨はたつた二日で付く」ということを、体験した思い出である。

ほんとうに、体というのは傷を治すのに、本当によく出来ている。

追記：行岡の誇りを忘れず、今後とも少しでも社会のお役に立てるよう整備を続けていきます。学校関係者、同窓生各位のご発展をお祈りしつづ筆を置きます。

森澤先生追悼文

「先生には、行岡会総会の度ほんとうに暖かく接して頂きました。懇親会ではいつも玄関まで送ってくださいました。また、私事叙勲祝賀会には大分の地までお出で下さいました。優しいお姿は忘れません。心より哀悼の意を表します。」

### 心より願う

和歌山支部 21期 川本 憲美

行岡整復専門学校を卒業して50年近くになります。

私の父、長男、次男も行岡出身。

同じように行岡という歴史も見てきました。



思い出深い天六校舎。和歌山から片道2時間。帰宅は毎日夜11時という生活でした。資格取得後の研修。懐かしさがよみがえります。同窓会の総会や研修会に参加させて頂き、時代の変化や若い息吹を感じながら、全国の先生方とも多岐にわたり意見交換を行いました。

同窓会活動はもとより、技術の事、業界の事、私生活の事など世代を超えた様々な意見の場、交流の場が行岡会でした。

私が40歳の時に父の整骨院を継承し、今から約6年前、長男が40歳になったのを

機に院を委ねました。当院も60周年を迎えようとしています。私事でございますが、大学生から小学生まで6人の孫に恵まれ、今は家族と夫婦の時間を大切にする「心のゆとり」も生まれました。

最近になり、長男と次男が卒業した茨木校舎を訪れる機会がありました。行岡整復専門学校だった当時、法改正により修業年限が3年になり、天六から茨木市に移転。大阪接骨学校を起源とする柔道整復教育の殿堂として茨木校舎が建設された事を今でも鮮明に記憶しています。

現在の茨木校舎は大阪行岡医療大学となり、医療学部理学療法学科が設置されています。大学の校庭に残る時計台、そこには寄贈した行岡整復専門学校の卒業生の名前が深く刻まれています。永久に時を刻む時計のように、行岡保健衛生学園と行岡会の発展を心より願います。

### 【訃報】

本年3月16日に前会長である森澤 大名誉会長が享年75歳でご逝去されました。

10年間の長きにわたり同窓会を引っ張り、ご尽力を賜り誠にありがとうございました。ここに哀悼の意を表し故人のご冥福をお祈り申し上げます。



# 学校行事関係報告

## 大阪学術大会にて発表

令和元年8月31日(土)、9月1日(日)に大阪柔整会館において大阪府柔道整復師学会が行われ、本校から高岡優君がポスター発表をさせて頂きました。二日目の午後のプログラムで「膝関節損傷における機能回復訓練の重要性」という題で、前十字靭帯断裂から競技復帰した自分自身の経験をもとに機能訓練の重要性を再認識したことを発表してくれました。今後の彼の成長を期待させる発表でした。



## 近畿学術大会にて発表

令和元年10月20日(日)に第44回近畿学術大会滋賀大会が津市のピアザ淡海県民交流センターで行われました。本校から三宅輝彦君と岩本弥己君の二人が発表させて頂きました。三宅君は「足底・足趾感覚とバランス能力の関係性」、岩本君は「日常生活でのテーピングによる筋力強化の可能性の検討」(ルーズシヨルターへの施術に用いて)という題で発表致しました。どちらもエビデンスを得るための初期の取組みの発表でしたが、今後も研究を重ねてしっかりとしたエビデンスとなるよう研鑽して欲しいと思います。期待しております。

## 校内柔道同練習会開催

令和元年12月6日(金)全学年が揃って柔道同練習会を開催致しました。本来であれば校内柔道大会を開催していましたが、学生数の減少に伴い大会を催すことが出来なくなりましたので、同練習会を行うことに致しました。



## 整復科・鍼灸科合同学術大会開催

今回で3回目となった鍼灸科との合同学術大会を令和元年11月2日(土)に大阪行岡医療大学講堂にて開催致しました。今回は本校鍼灸科の卒業生でいらつしやる山根款先生に「臨床に活かす解剖生理運動学」をテーマに講義頂きました。「と」という題で講義頂きました。臨床の傍ら解剖学教室に通い研究されている先生ならではのお話が大変勉強になりました。整復科からは三宅輝彦君、岩本弥己君が口頭発表、高岡優君、河村翔がポスター発表をしてくれました。田邊先生に表彰状の授与をして頂き、発表者も大変喜んでおりました。



## 令和元年度卒業証書授与風景



令和2年3月7日(土)に挙行される予定の卒業式は中止となりました。各校舎の教室にて代表者に校長から卒業証書が授与される形となりました。残念で堪りませんが、致し方ない状況でした。

令和元年度 同窓会会長賞授与(滝下将弘君)

例年の如く同窓会より会長賞を賜りました。受賞したのは滝下将弘君で、本学園鍼灸科へ進学致しました。



## 《令和元年度 各賞受賞者》

- ◎校長賞 三宅 輝彦
- ◎大阪府専修学校各種連合会会長賞 河村 翔
- ◎全国柔道整復学校協会会長賞 大久保圭一

### 令和元年度 国家試験合格者数

受験者数	19人
合格者数	10人
合格率	52.6%
全国平均	64.5%

今回の結果は史上最低の合格率となつてしまい、受験した学生にもまた諸先輩方にも大変申し訳ない結果となつてしまいました。次年度はこんなことがないように指導してゆこうと思っております。



滝下将弘君と田中勇二先生

- ◎日本柔道整復接骨医学会会長賞 原戸 工
- ◎大阪府柔道整復師会会長賞 河野 隆海
- ◎日本柔道整復師会 会長賞 岩本 弥己
- ◎全国行岡会(同窓会)会長賞 滝下 将弘

## 編集後記

いつも広報誌作成においてご協力賜りありがとうございます。新型コロナウイルスにおきまして各被害にあわれた方には心よりお見舞い申し上げます。今年は総会中止にて広報誌は新聞形式で簡略させて頂きました。なにとぞ理解の程よろしくお願い申し上げます。広報委員会 一同

広報委員長 藤井 敦志  
 広報委員 藤井 憲之 本田 雅彦 古沢 公一